

狂言・野村万蔵

技とところ



- ◆文化庁優秀映画大賞
- ◆毎日映画コンクール記録文化映画賞
- ◆キネマ旬報文化映画ベストテン第2位
- ◆日本映画ペンクラブベストファイブ第2位
- ◆優秀映画鑑賞会推薦

監修=田口和夫(文教大学教授)
荻原達子(能楽プロデューサー)
企画=財団法人 ポーラ伝統文化振興財団
製作=株式会社 桜映画社

◆カラー・50分
◆販売価格(消費税別)
16ミリ 380,000円
VHS 50,000円(ライブラリー価格)
25,000円(学校・一般価格)

監修のことは

文教大学教授 田口和夫

七世野村万蔵が戦後狂言界の新しい波の旗手であったことは、誰も異論のないところであろう。父六世万蔵が第一人者としての評価を得るに至る舞台を的確な演技で支えていた古典の場においても、観世寿夫たちと能・狂言の枠を取り払って創造した新しい演劇の場においても、万蔵(当時万之丞)は中心的存在であった。その時代の万蔵は天与の声・身体を父から厳しく鍛えられ、狂言は言うに及ばず、能・能楽論にまで関心を深めていた。万蔵の舞台の根幹をなす舞歌の二曲はこの時代の修練によつて獲得されている。

時は移り、狂言界において東の万蔵は西の四世茂山千作と並び立つ存在になっている。この映画は、その万蔵の現在を核として、現代に生きる狂言、その伝承のあり方にまで分け入ろうとするものである。まず、何よりも近代狂言の完成者としての万蔵の舞台の魅力を記録しておきたいと願った。万蔵の舞台における大きさ、「大竹のごとくあれ」という家訓にもっともふさわしい大名の演技が、蚊相撲の舞台から見えてくる。また万蔵の魅力は愛嬌があつてしかも崩れない太郎冠者の演技にもある。《隠狸》からその楽しさが知られる。古典・新作において常に創意・工夫を怠らない万蔵の日常も紹介される。

そのような万蔵の魅力が、どのように次の世代に受け継がれてゆくのか、狂言の伝承の厳しさも、その孫太郎を薫陶する映像の中に知ることができよう。



狂言「磁石」シテ・すっぱ 茂山千作 アド・見付の者 野村万蔵(右)



狂言「隠狸」シテ・太郎冠者 野村万蔵(左) アド・主 野村与十郎

◎協力
 国立能楽堂
 宝生能楽堂
 法政大学能楽研究所
 観世文庫
 河鍋晓斎記念美術館
 MOA美術館
 亀田邦平
 能楽座
 萬狂言

四世 茂山千作 (人間国宝)

笛 一噌 仙幸
 小鼓 北村 治
 小鼓 鶴沢洋太郎
 小鼓 坂田 正博
 大鼓 亀井 忠雄

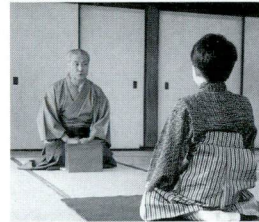
◎出演者

初世 野村 萬
 (人間国宝・七世 野村万蔵)

二世 野村万之丞
 二世 野村与十郎
 二世 野村 祐丞
 二世 野村 万緑
 増田 秋雄
 小笠原 匡
 井関 義久
 久保 克人
 野村 晶人
 橋本 勝利
 安田 龍雄
 野村 太郎
 野村 虎之介



狂言「蚊相撲」シテ・大名 野村万蔵(右) アド・蚊の精 野村祐丞



孫 太郎に稽古をつける



狂言「茸」シテ・山伏 野村万蔵、他

〈写真・桑野恒郎〉

◎製作スタッフ
 製作 村山正実 / 山本孝行
 脚本・演出 村山正実
 撮影 西山東男
 応援撮影 山屋恵司 / 木村光男
 撮影助手 今野聖輝 / 藤江 潔
 田中龍雄
 藤来義門
 照明助手 鎌田 勉
 編集 吉田栄子
 ネガ編集 加納宗子
 選曲 山崎 宏
 録音 堀内戦治 / アオイスタジオ
 映像 語り 加賀美幸子

伝統芸能の技とところを伝える

世阿弥の能 (49分)

【外国語版あり】
 販売価格
 16ミリ 300,000円
 VHS 50,000円
 (ライブラリー価格)
 25,000円
 (学校・一般価格)

能 (30分) 【外国語版あり】

販売価格
 16ミリ 200,000円
 VHS 40,000円
 (ライブラリー価格)
 20,000円
 (学校・一般価格)

狂言鑑賞入門
 棒縛・宗論をみる (33分)

販売価格
 16ミリ 240,000円

※表示価格は消費税別の価格です。